

上方落語五流派競演会

月亭
八
方

笑福亭
小
松

桂
小
春
団
治

桂
き
ん
枝

林家
染
丸



2005年
6月11日【土】15:00開演 (14:30開場)

茨木市民総合センター・クリエイティブセンター・センターホール

JR茨木駅から東へ徒歩10分、阪急茨木市駅から西へ徒歩10分、茨木市民会館北200m

■入場料
全席指定 1階席=3,000円 2階席=2,500円
割引=65歳以上、18歳以下、障害者及びその介助者の方は500円引き
就学前のお子様はご遠慮ください

■チケット販売所 (3/15発売)
(財)茨木市文化振興財団072-625-3055 / J A 茨木市各店舗072-627-7762 (本所総務課)
ファミレコード阪急茨木市駅前店072-626-3723 / 朝日野村北摂販売(株)072-643-8424
ローソンチケット・Lコード予約0570-06-3005 (Lコード52755) ※ローソン各店舗で購入できます
電子チケットびあ0570-02-9999・Pコード予約0570-02-9966 (Pコード359-876)
※ローソン・びあでは割引の取扱いはありません。

■お申し込み・お問い合わせ
072-625-3055 (財)茨木市文化振興財団 月~金、8:45~17:15、土・日・祝日休業 / 〒567-0888茨木市駅前四丁目6番16号クリエイティブセンター1階

【番組】
「上方落語界の現状」相羽 秋 夫
*
「代 書」桂 小春団治
「三人上戸」笑福亭小 松
「算段の平兵衛」月亭八 方
中人
「悋気の独楽」桂 きん枝
「寝 床」林家 染 丸
お囃子／なにわの会
当日のアンケートにお応えいただいた方の中から、抽選で、出演者のサイン色紙、手拭、著書等プレゼントします。
どうぞお楽しみに！

上方落語五流派競演会

●2005年6月11日(土)15:00開演／14:30開場●茨木市クリエイトセンター・センターホール●全席指定●1階席3,000円／2階席2,500円／

65歳以上、18歳以下、障害者及びその介助者の方は500円引き●お申込み・お問合せ:(財)茨木市文化振興財団072-625-3055クリエイトセンター1階

上方落語、煌めく二〇〇人の精鋭たち



相羽秋夫

演芸評論家
大阪芸術大学教授

昨年、上方落語家の人数が二〇〇人を超えた。戦後すぐの頃に、上方落語の滅亡とささやかれた時の十人前後と比べるとまさに隔世の感がある。

故人となった三代目桂米朝、三代目桂春団治、現役でがんばる三代目桂家染丸、六代目笑福亭松鶴、それ以外の門下の統領が、けんめいに弟子を育成した成果である。そして、それぞれの流派が、独自のカラーを発揮して、芸の努力をした結果が、今日大きく花開いたのである。

今回の催しは、茨木市文化振興財団が設立されて、ちょうど一〇年目の記念の会として、上方落語界を華麗に綾なす五大流派から、一人ずつ代表者を選んで、皆さんに等身大の上方落語を知ってもらおうという企画である。

出演順に五つの門下を紹介しよう。

まず三代目の春団治を筆頭とする春団治一門である。筆頭弟子は、桂福団治であるが、理由あって独立した祝々亭船伝が一番古い。また、福団治のすぐ下に春蝶がいた。彼は若くして病死した。

二番弟子の春之輔が、一門のフイクサー役を買って出て、次々と門下の存在を示すイベントを考え出している。

名跡の復活もその一つで、今回出演する三代目小春団治も、かつて露の五郎が名づけていた出緒ある名前だ。その五郎も春団治一門の一人で、多くの弟子がいる。

この一門、今年の一月現在(以下同じ)で、三二人の陣営を誇っている。

続いて、故六代目松鶴一門である。

松鶴亡き後は、筆頭弟子の仁鶴がまとめているが、それぞれ立派に成長して個性豊かになんぼっている。

「笑福亭の捨て育ち」と言って、あまり干渉しない松鶴の教育法が実っている。

一門で輝いているのは鶴瓶で、マスコミでの活躍は、ここに書くまでもないほどである。

東京生活の長かった鶴光も、このところ関西で顔を出すことが多くなった。本格派として、松喬が奮闘している。

小松は、ガンを克服し、病後すぐに全国を徒歩で縦断して各所で落語会を開いて話題になった。

一門には松之助やその弟子の明石家さんまもいて、総勢五九人と最も多い。

人間国宝米朝一門は、人数的にも、顔ぶれも多士済々だ。筆頭弟子の月亭可朝は、かつて小米朝と名のついていたが、月亭と改名して一家を成した。

その弟子の八方が、今回は一門を代表して出演している。マスコミでの活躍も見がせない。

故人となった枝雀や、八面六臂の動きを見せるさこば、米朝の実子小米朝、さらには、女優三林京子も、すずめの名前で一門に加わっている。

枝雀門下の南光、雀三郎、九雀なども鮮明な軌跡を見せて活躍している。

米朝は、上方落語界最長老。文字通り精神的支柱だ。一門総数は五五人である。

現上方落語協会会長三枝を擁する文枝一門も、ユニークな存在が多い。

文枝の弟子育てのうまさは定評があり、三枝を筆頭に、文珍、文福、小枝など、マスコミの寵児をたくさん出している。

その一人が、今回出演のきん枝で、若い女性と再婚して話題を呼んだのは記憶に新しい。

全体で四人しかいない女流の中で、最も目立った動きを見せているのが、あやめで、強烈なインパクトを世間に与えている。

前述した三枝協会長は、就任以来、次々にアイデアを出して、活性化のために手を打っている。

目下は、落語の寄席を作ろうと、資金集めに余念がない。一門の総勢は四三人である。

最後に染丸一門の紹介である。

こちらは総勢一五人と少ないが、それだけに、四代目染丸を中心がっちりまとまり、林家の存在を示すための、いろいろな手段を講じている。

今回は、そのメインの染丸自身が出演して、トリをつとめる。音曲、芝居に長じるが、先代ゆずりの滑稽もよく持っている。

染丸と同門になる染語楼や小染、弟子の染二など、この門下にも優秀な人材が多い。

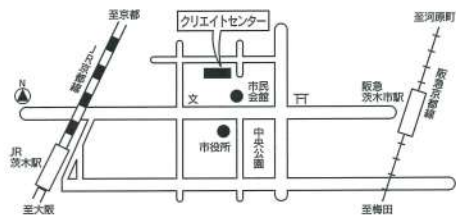
これら五流派の他に、桂文紅、橘家三三、二代目森乃福郎などを加えて、上方落語界は燦然と輝いている。(敬称略)

●電話予約・ご精算について

- *電話予約もお受けしますが、お席の希望はお聞きできません。予約後は、1週間以内に財団事務局でご精算ください。
- *予約チケットの郵送をご希望の場合は、(チケット料金+郵送料290円)を郵便局備え付けの「払込取扱票」でお振替ください。
- (振替口座) 口座番号: 00970-7-190576 / 加入者名: 財団法人茨木市文化振興財団。
- *当財団での窓口販売と電話予約が競合した場合は窓口販売を優先いたしますので予めご了承ください。

(財)茨木市文化振興財団

〒567-0888茨木市駅前四丁目6番16号クリエイトセンター1階/TEL072-625-3055 FAX072-625-3036
クリエイトセンター(茨木市民総合センター) JR茨木駅から東へ徒歩10分、阪急茨木市駅から西へ徒歩10分



株式会社 矢野電機製作所

電子機器 開発・設計・組立

代表取締役 矢野 克吉

〒567-0845茨木市平田二丁目35番12号
TEL072-634-1598 (代) / FAX072-634-1604 / E-mail:kyano@pearl.ocn.ne.jp